

天理市埋蔵文化財センターだより Vol.13

第一部

平成22年度 発掘調査速報展

ノムギ古墳

平成23年度冬の文化財展

『発掘の現場から -地下に眠る天理の昔々-』



長寺遺跡
復元された弥生時代の女性

第二部

いちのもと

櫟本町

長寺遺跡の考古学

◎平成23年度冬の文化財展

第一部 平成22年度発掘調査速報展

第二部 櫟本町 長寺遺跡の考古学

平成23(2011)年12月10日(土)~25日(日)

※ 9:00~17:00

※ 12日(月)、19日(月)、23日(金)は休館

天理市文化センター
1階展示ホールにて

◎文化財講演会と展示解説

12月18日(日)14:00~

1階展示ホールにて

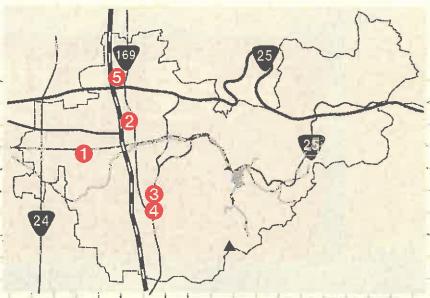
天理市教育委員会文化財課がこれまでに実施した市内の遺跡の発掘調査により、多くの成果が得られてきました。それらの成果の一部について、平成18年度より夏と冬、年2回の文化財展示をおこない、市内の埋蔵文化財について理解を深めていただけるように努めています。

今回の「センターだより」は平成23年度冬の文化財展の内容にあわせ、『平成22年度発掘調査速報展』と『櫟本町 長寺遺跡の考古学』の2部構成とし、これまでの発掘調査による成果をご紹介いたします。

第Ⅰ部 平成22年度発掘調査速報展

天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。今回は平成22(2010)年度におこなった5件の発掘調査の成果を紹介いたします。

- ①平等坊・岩室遺跡第33次
- ②山の辺第1工区 土地区画整理事業に伴う調査 ③成願寺遺跡第17次
- ④ノムギ古墳第4次 ⑤長寺遺跡第17次



ノムギ古墳 第4次

のむぎこふん



ノムギ古墳は大和古墳群の北端に全長63mの前方後方墳です。大和古墳群基礎調査の一環として平成21年度から範囲確認調査をおこなっています。

平成22年度に実施した第4次調査では、後方部南側の周濠が直線的な形状であることが判明しました。また、墳丘裾がほぼ直角に屈曲する状況を確認することができ、後方部の南西角に相当することがわかりました。ノムギ古墳の形状を復元する上で重要な手がかりです。



中世末～近世の溝 掘削風景

平等坊・岩室 遺跡 第33次

ひょうどうぼう・いわむろいせき ①



平等坊・岩室遺跡は弥生時代の拠点集落として知られる遺跡です。遺跡南半において長屋住宅建設に伴い発掘調査をおこない、中世末から近世の溝から多数の遺物が出土しました。今回の調査地は旧来の岩室集落の東北端にあたり、岩室集落の屋敷地に伴う溝であった可能性があります。また、弥生時代前期を中心とする土器片も出土しており、弥生集落域の広がりを知る手がかりが得られました。



調査風景

土器
出土状況

宅地造成に伴い発掘調査をおこないました。調査では弥生時代中期頃の土坑や溝を数多く検出しました。土坑の中には壁面や床面が真っ赤に焼けているものがあり、火を用いた何らかの作業がおこなわれていたようです。紀伊や東海地方との交流を示すような遺物も見つかっています。

また、南北方向に伸びる中世の大溝も検出されており、調査区北側に所在する楨町の村落の成立に関わる遺構と考えられます。

長寺遺跡 第17次

おさでらいせき



土器
出土状況

個人住宅建設に伴う調査で、古墳時代前期の溝状の遺構が見つかりました。すぐ南側のノムギ古墳との関連が注目されます。



成願寺遺跡 第18次

じょうがんじいせき

山の辺第1工区 土地区画整理事業 に伴う調査

やまのべだいいちこうく
とちくかくせいりじぎょう ②



期間 平成22年12月3日～
平成22年12月15日



期間 平成22年11月8日～
平成23年1月31日

土地区画整理事業に伴い田部町内で3ヶ所の調査をおこないました。縄文時代後期から古墳時代に至る時期の遺物を含む自然河川の後を数条検出しました。自然河川が時期によって位置を変えながら、長期間にわたって流れ続けていたことがわかります。

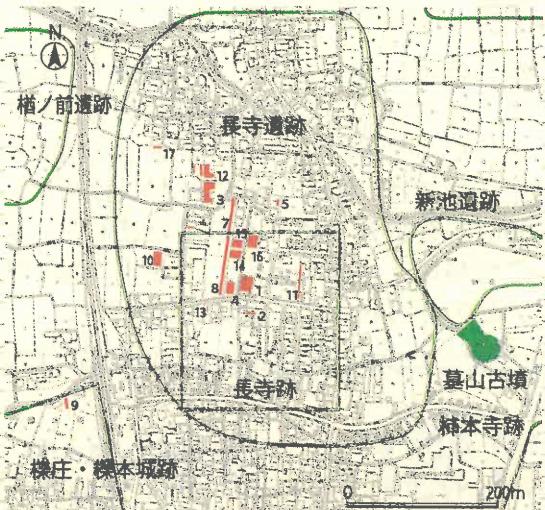
第Ⅱ部 櫟本町長寺遺跡の考古学

天理市櫟本町にある長寺遺跡は、弥生時代の集落、古墳時代の古墳、奈良・平安時代の寺院などがかつて存在したことなどが知られる遺跡です。天理市教育委員会は昭和55(1980)年の第1次調査以来17次にわたって発掘調査をおこない、多くの成果が得られています。

長寺遺跡の立地

東大寺山丘陵の西山麓にあり、標高66~69mのゆるやかな傾斜地に立地しています。発掘調査によると、東西方向に延びる複数の谷地形がかつて存在し、それらの間の微高地上に集落が広がっていたようです。

周辺には古墳・遺跡や寺院跡が点在しており、豊かな歴史的風土に恵まれた地にあります。



弥生時代のムラ



弥生時代後期後半の土器群(第12次調査)



復元された長寺遺跡の弥生女性
(第10次調査)

長寺遺跡では弥生時代中期後半になって集落が大きく拡大したようです。その後集落の活動は低調となりますが、弥生時代後期後半に再び活発化したらしく、古墳時代前期前半にかけての遺構・遺物が多数残されています。長寺遺跡の盛衰は東方に位置する東大寺山遺跡とも関連している可能性があります。

第10次調査で見つかった弥生時代中期の大型の井戸からは、土器とともに人骨が出土しました。見つかった人骨は上半身のみでしたが、弥生時代の良好な遺存例として貴重なものです。

埋もれた古墳



後期の埋没古墳(第16次調査)



水路に転用された埴輪(第8次調査)

長寺遺跡ではこれまでの調査により多数の埋没古墳が見つかっています。これらの古墳は本来あった墳丘が水田開発などの理由により削り取られ、周濠のみ地中に埋没した状況で残ったものです。

最も古い長寺1号墳は古墳時代前期初頭に築かれた古墳で、集落に現れた首長層の墓でしょう。後期になるとさらに多数の古墳が築かれたらしく、古墳の周囲に並べられていた埴輪を後の時代に転用したことを示す遺構も見つかっています。

古代寺院の痕跡

遺跡名の由来ともなった「長寺」は、延久2(1070)年の文書に記録がある古代寺院ですが、推定地付近からさらに古い時期の瓦が出土することは発掘調査以前から知られていました。

これまでの発掘調査により、奈良時代の掘立柱建物跡が複数見つかっているほか、飛鳥～奈良時代の瓦もたびたび出土しています。遺物や遺構の状況から、現在の高良神社付近を中心とした南北約200m程度の規模の寺院がかつて存在したようです。



出土品紹介

人骨

じんこつ

平成5年度におこなった長寺遺跡第10次調査では、弥生時代中期の大型井戸から人骨が出土しました。骨格の特徴から30~40歳代の女性と見られます。遺存状況は比較的良好で、生前の顔立ちを復元することができました。見つかった骨格は上半身のみで、なぜ下半身が失われていたのかは明らかになっていません。



■長寺遺跡第10次
出土人骨

出動！発掘現場レポート!!

平成23年度上半期の調査

天理市教育委員会は平成23(2011)年度上半期に発掘調査を4件実施しました。ここではその成果をいち早くお知らせいたします。

■柿本寺跡

集合住宅建設に伴い櫟本町内で発掘調査をおこないました。調査では南側に下がる地形が確認され、最も高い北端部分では奈良時代ごろの掘立柱建物の一部や浅い溝が見つかりました。

■柳本藩邸遺跡第12次

個人住宅建設に伴い柳本町内で調査をおこないました。柳本藩邸と同時期の遺構のほか、中世後半段階の溝や古墳時代前期の土坑など、多数の遺構が見つかりました。

■中町西遺跡

店舗付倉庫建設に伴い中町内で調査をおこないました。中町西遺跡では京奈和自動車道の建設に伴う調査で古墳時代の集落が見つかっていますが、今回も同時期の遺構が検出されました。

■山の辺第1工区土地区画整理事業に伴う調査

土地区画整理事業に伴い田部町内で発掘調査をおこないました。古くは大きな谷地形でしたが江戸時代には水田化し、その後旧丹波市駅関連施設に伴い1.8mも盛土されたことがわかりました。

平成23年度の調査成果は
来年冬の文化財展で
展示するよ！



『天理市文化財・遺跡分布地図』改訂のおしらせ

『奈良県遺跡地図』の改訂に伴い、『天理市文化財・遺跡分布地図』も改訂しました。

■『天理市文化財・遺跡分布地図(平成23年4月1日現在)』

販売箇所：天理市立黒塚古墳展示館・天理市埋蔵文化財センター

問い合わせ：天理市教育委員会文化財課 Tel・Fax 0743-65-5720

※「天理市埋蔵文化財センターだより」Vol.14は、平成24年夏発行予定です。
お楽しみに！！



■平成23年度上半期の調査遺跡



■柿本寺跡
全景(北から)



■柳本藩邸遺跡第12次
遺物出土状況

発行◆天理市教育委員会 文化財課

天理市埋蔵文化財センター

〒632-0017 奈良県天理市田部町320

Tel・Fax 0743-65-5720

印刷◆富光株式会社